

第1回伊勢市路上喫煙対策審議会議事要旨（令和5年度第1回）

- ・日時：令和5年10月20日（金） 10時～11時15分
- ・場所：伊勢市役所本庁舎 東館4-2会議室
- ・出席者：委員（別紙のとおり）
事務局（環境生活部長（大桑）、ごみ減量課長（林）、健康課長（谷）、健康課主幹兼係長（杉浦）、観光振興課長（吉居）、観光振興課主幹兼係長（東）、都市計画課副参事兼係長（青山）、ごみ減量推進係主査（東條）、ごみ減量推進係（森井））
- ・審議結果等：
事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

【事務局挨拶】

（事務局1）昨年度は雨の寒い中、路上喫煙禁止区域を現地視察し、喫煙所やポイ捨ての状況を見ていただいた。本日は禁止区域の課題について、皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。JTさんも来ていただいているのでアドバイスをいただけたらと思う。

【審議】

路上喫煙禁止区域の課題について（資料1-1～資料4）

（事務局2）【現状】たばこのポイ捨ては依然として続いており、宇治山田駅エリアの喫煙所周辺が多く、伊勢市駅エリアは商店街の出入り口の禁止区域外、内宮エリアはボランティア清掃が増えたのか、本数が多くはないが、河川敷の周りはポイ捨てが続いている。今年の夏は内宮の禁止区域外でプラ容器や串などが多かった。昨年の審議会でお伝えした宇治山田駅前喫煙所横のベンチにたばこが刺さっていた件は、チラシや掲示を見ていただいたのか最近は落ち着いている。また、7月29日に街頭啓発をした際のアンケートは、伊勢市駅前には観光客が多いのもあり路上喫煙禁止区域を知らない方が圧倒的で、歩きたばこを見かけた方はいなかった。宇治山田駅前には禁止区域を知っている方は半々。喫煙所の要望としては、屋根を付けてほしい、禁止区域が商業施設にあったほうがよいなど。内宮前エリアも観光客の関係で大多数が禁止区域を知らない。伊勢市駅前の禁止区域がわかりづらいとのことから、観光課さんをお願いして伊勢市駅構内のデジタルサイネージへ「喫煙禁止区域」と「喫煙所の案内」を掲示させていただいた。また、観光協会へ依頼し、観光案内所の職員に「喫煙所の案内」をしてもらうため、案内チラシや啓発ティッシュなどを提供した。

【課題】伊勢市駅エリアは喫煙所の苦情があり、移設や増設、環境整備の検討をしていく。

伊勢市駅前を出て、区域の表示などなかなかできていない現状がある。昨年度の審議会でも路面表示や掲示物についてわかりやすいもの、親しみやすいもののご意見をいただいているが、掲示ができていない理由の一つとして、今年度から全庁的に市内の案内看板やサインを統一化しようという動きがある。ルールに従って作る必要があるため、ルールができるまで看板作成はストップとなる。宇治山田駅前エリアは、ベンチのポイ捨ては再発がないか注視していく。

内宮エリアは当初、地元の方の声を受けて禁止区域の拡大をしていく話をしてきたが、区域をどこまで広げるのか、線で広げるか面で広げるのか？路上喫煙の条例の中では、喫煙所と区域がセットになることや、禁止区域の中には喫煙所を設置できないことなどから、禁止区域外に喫煙所

を作ることなるため、検証が必要との判断に至った。

区域を拡大する以上は、喫煙所を合わせて考える必要があるが内宮エリアで新たに喫煙所を設置できる場所は現状なかなか難しい。また、区域拡大の検討の前には喫煙エリアの周知が必要と考えている。

路地での喫煙対策は、ポイ捨てが続いているのであれば、どうやって喫煙所に案内していくのかを考えていく必要がある。

地元の自治会長からの話で、観光客がポイ捨てしようとしたので、会長が購入した店舗に持ち帰るよう話をしたところ、ここまで歩いてきて戻れないと言われ、トラブルになった。他市の状況を調べた中で長野市で「ゴミ箱がないので持ち帰ってください」と多言語で表記した看板があるので、そのような看板を作成してほしいとの依頼があった。市営駐車場には日本語のみだが、同様の看板はある。また情報共有だが、観光地のポイ捨て対策として、墨田区ではスカイツリーが開業した際に、観光客用へゴミ袋を配布した事例や、北海道の羅臼町にも観光客専用ゴミ袋がある。こちらはゴミ袋を購入していただく必要があるが、市内協力店へ持ち込みすることができる仕組みとなっている。

(委員 1) 路上喫煙禁止区域は、伊勢市全体では無理なのか？今は区域限定にしているが、市全体を禁止区域にして、重点区域を作ったり時間帯で禁止などがあってもよいのでは。伊勢は他市から見ると神宮があり特殊な場所で、市民の意識も高い。また路上喫煙は、暮らしている人たちの生活を乱すこともあり、店の人も近所に気を遣うが限界がある。観光地に来る人の倫理観を引き出すしかない。伊勢市全体がそういう町にするには、喫煙所や看板を増やす必要があり、無機質ではなくつい見入ってしまうようなものが良い。携帯灰皿もおしゃれなものを持ちたいと思う。そういう意味では観光客のゴミ袋も、袋自体がおみやげになるくらいおしゃれなものが良いと思う。メディアにも協力してもらい、エリアのことを発信してもらおうなど重要。

(事務局 3) 市内全域を禁止区域にという話は、周知度のこともあるが、まずは禁止区域を設定する前提としてポイ捨て条例があり、それが市内全域になっている。また今年度から、ボランティアの方が掃除しているところや啓発などをホームページ等で発信している。周知は観光客と市民も強化しないとイケない。今後は区域拡大が課題だが、ポイ捨て等があるので、まずは区域の周知を高めていく。禁止区域の地域は周知について、景観のことがあるので進めにくいだが、地域と連携して研究をしていきたい。

街頭でのアンケートは、答えていただいた方に景品（マスクと携帯灰皿）を渡したが、マスクを選ぶ方が多かったので非喫煙者が多かったと思われる。

(委員 2) 10月16日に内宮領の川曳きで、たくさん観光客がみえた。自分は駐車場や階段付近を歩いていたが、ほとんどの方がたばこを吸ってない。駐車場の料金所のところで啓発ができれば良いのでは。

(事務局 3) 令和2年から禁止区域を設定したが、パトロール中に喫煙している人を見るのはまれ。見かけた時は宇治山田駅前のバス停のところで、人を待ってる間に吸っているケース。伊勢市駅前の飲食店街に夕方回ったが、見かけない。知らない所で吸われている。

(委員 1) ダメとわかっているから、隠れて吸っている。大抵の人は携帯灰皿を持っているので、倫理観のない人をどう引き込むかに尽きる。

(事務局 3) 伊勢市駅は降りてきた人がすぐにタクシーに乗り込むので、タクシーから離れるのは難しいが、タクシー付近にも吸い殻が散乱しており、目撃情報もある。周辺で吸えるのがファミマ横の喫煙所なので、場所を移動しなくてはならず、難しい。

(委員 1) 可能であれば、タクシー会社に携帯灰皿などを渡して、協力をしてもらうのもありだと思う。

(委員 3) 以前の審議会でもおっしゃっていたが「ダメ」ではなくて、伊勢ならではの発信の仕方を提案いただいた。

(委員 1) 嗜好物なので、ダメと言うより居心地良くしてあげるのが望ましい。持ちたくなるような携帯灰皿でおみやげになるようなものを作るなど。

(委員 3) 路面表示、看板を市内で統一するという話があるが、伊勢の魅力を発信するような工夫を考えていただくのが良い。

(事務局 2) JT さんに聞きたいが、全体的にたばこを吸う人は男性が多いと思うが、年齢構成は？

(事務局 5) 最新の情報では全体の 20%弱くらいが喫煙者で、やはり男性のほうが多く 17%くらい、女性は 5、6%。最近加熱式たばこが流行っていて、市場の 3 割くらい。若い方も加熱式を使う方が多い。においが少なく、吸える店が多いものもある。年齢層はそこまで大きい差はないが、やはり 30 代 40 代くらいになると増える傾向がある。

(委員 3) アンケート結果を見ると、宇治山田駅前には日ごろの路上パトロールの効果が現れている。伊勢市駅と内宮前は観光客が多いので、なかなか禁止区域の周知が徹底できていない。先ほど、委員 2 委員から提案のあった駐車場での周知は啓発効果がありそうな気がするが？

(事務局 2) 交通部局に相談をかけて検討する。

(委員 4) 先月に巖島神社に行ったが、今月から訪問税を取るようになった。観光客専用のごみ袋の資料に「処理費用に使う」とある。巖島神社は船で 100 円プラスなどがあり、伊勢市もサインなどでお金もいるので、伊勢市はどこでお金を取るのかということもある。おしゃれな袋を作って処理費用になればいいと思う。巖島神社はオーブツーリズムの関係でトイレの整備なども書いてあった。

(事務局 3) 鎌倉では、商店街が持ち帰り用のごみ袋を渡している。「渡す啓発」が大事。観光客に対して継続していかないと効果がない。「渡す啓発」を持続させていくのは労力が要る。

(委員 5) 路上喫煙禁止の看板を伊勢市駅前にはあまり出せないという話があったが、出すことによって

観光客の減につながることはないのでは。やはりアピール不足でホームページで出すくらいでは、わからないので、観光客に影響がないのであれば大きく出しても良いと思う。

(事務局 2) 禁止区域がスタートしてから、逆に年に 1、2 件は「他の観光地はたばこ吸う場所がなくて隅に追いやられるが、伊勢に來たほうが吸える」というお声がある。我々としては、マイナスというよりプラスのイメージ。

(事務局 3) 看板や喫煙所のサインは、禁止区域のスタート時にも周知を目につくようにしていきたいと話していたが、地元の方の考え方もあって、なかなか進めない。今後も話し合いをしていかななくてはならない。

(委員 5) 禁止区域の看板を出すと、風評被害的なもので観光客が減るのではないかという懸念があるが、実際は影響ないと考える。

(委員 1) コロナ対策でアルコールを店の前に置いているが、あの設置台に禁止区域の表示を貼ってもらうことは可能か？台は市が協力して、観光協会が設置していると思うが、外宮の通りで手っ取り早く目に付くので相談していただければ。

(事務局 4) 市内に 600~700 くらい設置している。このエリアでまずスタートしてみるなど可能だと思う。

【その他】

(事務局 2) 来年度に委員が変わるので、ご推薦をいただきますようお願いします。

(事務局 5) たばこメーカーとしての話だが、市内全面禁煙を実施するのが大阪市。まだ施行されていないが、ほぼ確定となっており、日本で 2 番目の都市なので観光客も多くトラブルしている。市の方で喫煙所を 120 か所と提示しているが、置く場所でもめている。伊勢市はいろんな文化の方が来るので、観光地は難しい。世界は様々なルールがあって、日本だけが屋外が禁煙という文化。ヨーロッパなどでは建物内は吸えないが、外は吸えるという国が多く、外で喫煙禁止の日本は稀有な例。建物内で禁煙は理解してもらえが、外で吸えないという認識がないので外国人は混乱を招いている。

喫煙できないことによる観光客減については、逆に喫煙できることを示すことで、観光客が増えることが多いのが通説。また、たばこを売ることに関して、未成年に興味を持ってもらってはいけないというガイドラインがあり、携帯灰皿もアニメのデザインなどはできない。

近鉄四日市駅は 6 月に喫煙所が撤去されて、東側に市管理の喫煙所は一つもなく、近隣の店の物を買わずに周辺にたばこを捨てている人がいる。民間と市のコミュニケーションが大事。

「禁止」の看板はあるが、「どこで吸えます」の看板がない所が多い。並列して表示するのが効果がある。

(事務局 3) 四日市や大阪の件もまた詳細を教えてください。

(事務局 2) 以上をもちまして、審議会を終了させていただきます。